ACPワーキンググループで出された意見

	現状と課題（第１回）	対応策（第2回）	今後の取組（第3回）
共通した物の必要性	○市内で使用できる共通した手帳・カードのようなものが必要	○受診するために必ず持っていくものにする ○統一した手帳の作成（オレンジ手帳のようなもの） ○書きやすいようにチェック項目を取り入れる	○ツールの作成 ○段階的に実施する ○まずはチェック項目から取り入れてみる ○ツールを持ち歩いてもらうためにケースによる普及
実践できるルールづくり（連携・調整）	○各病院で取り組み状況が異なる ○場当たり的な対応をしている ○様々な症例に対する効率化が必要 ○平準化したものが必要 ○本人、家族、多職種の中で必要なものとして認識してもらうしくみが必要	○市全体での共通ルールの作成 ○本人、病院、ケアマネなど様々なところで必要なものとなるようにする ○報酬対象となるルール検討 ○ACPを働きかける目安づくり（点数化）	○ツールの作成 ○オレンジ手帳との兼ね合いを検討 ○専門職への動機づけ
多職種連携	○ACPの理解がない ○お互いの連携の検討が必要 ○専門職同士の反省会がない	○専門職の理解を深める ○必要性を感じるための研修 ○顔の見える関係づくり	○専門職ごとに研修会を開催する ○多職種連携の研修会の開催 ○ACPの基本を理解する研修会の開催 ○ツールを活用したACPの取り組み方についての研修の開催
普及啓発	○市民への普及啓発（本人、家族等が知らない） ○市民の中での語り合いがない	○講演会の開催 ○劇でわかりやすく周知する ○書き方講習会の開催 ○草の根からの実施	○市報やSNS等での周知 ○職場内研修の開催 ○メディアの活用 ○書き方講習会の開催 ○ポスター・チラシの作成 ○市民向け講演会の開催 ○PR活動